

実践のまとめ（小学校3年 道徳科）

授業公開日 令和6年9月18日第5校時

指導者 胎内市立きのと小学校

教諭 磯部 一樹

1 研究テーマ

**生命や自然、崇高なものとの関わりに関する道徳的価値を多面的・多角的に捉え、そのよさについて実感を伴って理解し、考えを深めていける道徳授業
～充実した資料提示と単元構成の工夫をとおして～**

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

本研究では、内容項目を分ける4つの視点から、主にD「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」について研究する。理由は以下の2点である。

これまで私は主にA「主として自分自身との関わりに関すること」、B「主として他者との関わりに関すること」を扱った単元で研究を進めてきた。その研究を通して、他者との関わりの中で自己の在り方を考えさせる授業づくりの構成はイメージを掴むことができた。一方で、D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱った単元では、実感を伴った理解や思考を促すことが難しく、分かり切った解に着地するだけの深まりの無い実践になることが多かった。

学習指導要領解説「特別の教科道徳編 第3章道徳科の内容」には、「科学技術の進歩等に伴う物の豊かさ、便利さは、人間が本来もっていた感性や資質を弱くしてしまっているとも言われている」とあり、感性や資質の衰弱が現代社会の課題となっていることが述べられている。また、「科学が万能であるかのように錯覚しかねない今日の社会においては、人間の力では到底説明することができない美への感動や崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち、人間としての在り方を見つめ直すことが求められる」とあり、すぐに手に入る情報による観念的な理解に留まらず、美しいものを素直に美しいと感動できる感性を養うことの重要性が述べられている。実感を伴う機会が減少し、感性や資質が衰弱している現代において、D「主に生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱った教材と、児童の日常生活にある実感をつなげて捉えさせ、人間の力では説明できないほどの美への感動や崇高なものへの尊敬や畏敬の思いをもって自らの在り方を考えさせることが、特別の教科道徳科に課せられている課題であると考えられる。

(2) 研究テーマに迫るために

① 実物や充実した視聴覚資料の提示

教科書にはない補足的な資料や実物、児童の身の回りにあるものを資料として用意することで、児童の心に強く訴えかけたり、深く浸み込ませたりするなど、実感を伴った道徳的価値の理解に繋がると考える。また、どこか遠くのものではなく自分たちにも関わりがあることを感じさせ、自分事に引き寄せて考えさせることが有効だと考える。具体的に、どんな資料を、どのタイミングで提示するかを熟考し、有効性を確かめたい。

② 単元構成の工夫

本時の授業をより深く価値付けるためには、事前事後の関連する学習（単元構成）が重要であると考えられる。特に、D「主に生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」

で扱う自然の豊かさや美しい風景、生命の連続性や有限性は、すぐ近くにはあるものの、日常生活の中で意識することはあまり多くない。つまり、児童の日常生活とD「主に生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」で扱う教材をスムーズに繋ぐ単元の構成が求められる。自然や文化財など地域の宝を探る総合的な学習の時間とも関連させながら、道徳科のどのような学習内容を単元として組み込んでいくかを熟考し、本時の授業で大きな効果を発揮する構成を考えたい。

③ 児童一人一人の感じ方から展開する授業構成

授業の冒頭、もしくは教材文を読み聞かせた後に、児童に感じたことや考えたこと、関連する経験を聞く。児童の中でも、感じ方や考え方が異なることや、これまでの生活経験や体験活動の違いが想定される。そこで、児童の気づきや疑問、願いや思いなどから学習課題を立てることで、児童が自分事に引き寄せて考え、実感を伴った深い学びにつながると考える。

(3) 研究テーマにかかわる評価

「実感を伴った理解」は、「なるほど」「確かに」と児童自身が納得した解に辿り着くこと、「考えを深める」とは、他者の考えを参考に多面的・多角的に捉えた上で、自分の考えを再構築することと定義する。つまり、児童が他者の考えをもとに自分の納得解を記述したり、述べたりする様子を、授業中の発言や会話、ワークシートの記述から見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

幸福の王子（教科書名 東京書籍「新しいどうとく3」）

(2) 単元の目標

生命や自然、崇高なものとの関わりに関する道徳的価値を扱った教材と、「親切・思いやり」の教材で学習したことを関連させながら、充実した視聴覚資料の提示と児童の思考に即した授業展開を工夫することで、美への感動や崇高なものへの尊敬や畏敬の念をもって自らの在り方を考える力を高める。

(3) 単元の評価規準

道徳的価値の理解	自己を見つめる	多面的・多角的に考える	考えを深める
美しいものは、目に見える物だけでなく、人の心や生き物の行動や言葉など、目に見えない美しさもあることに気付いている。	物語の中から、美しいと感じるものを、自分の感じ方をもとに見つけ出したり、自分の中の美しい心について考えたりしている。	友達が感じた美しさや、物語に出てくる王子やツバメの心情について考え、「美しいもの」について考えを広げている。	美しいものの捉え方を深めたり、美しい心に近づきたいという思いを高めたりする。

(4) 単元と児童

児童は男女分け隔てなく関わり、互いに助け合うことのできる集団である。1学期の実践では、水辺を飛び交うホタルの映像に目を輝かせ、環境汚染によって住む場所を奪われている生き物たちについて真剣に考えていた。しかし、中学年になると、友達との間で本音が言えず周りに合わせたり、我慢をしたりする様子も見られるようになってきた。また、ゲームなど二次元世界での遊びに偏った生活習慣の中で、心を震わせるような場面に出会う機会が少ないのではないかと感じる児童もいる。自分の心に素直になれない、感動する場面に出会

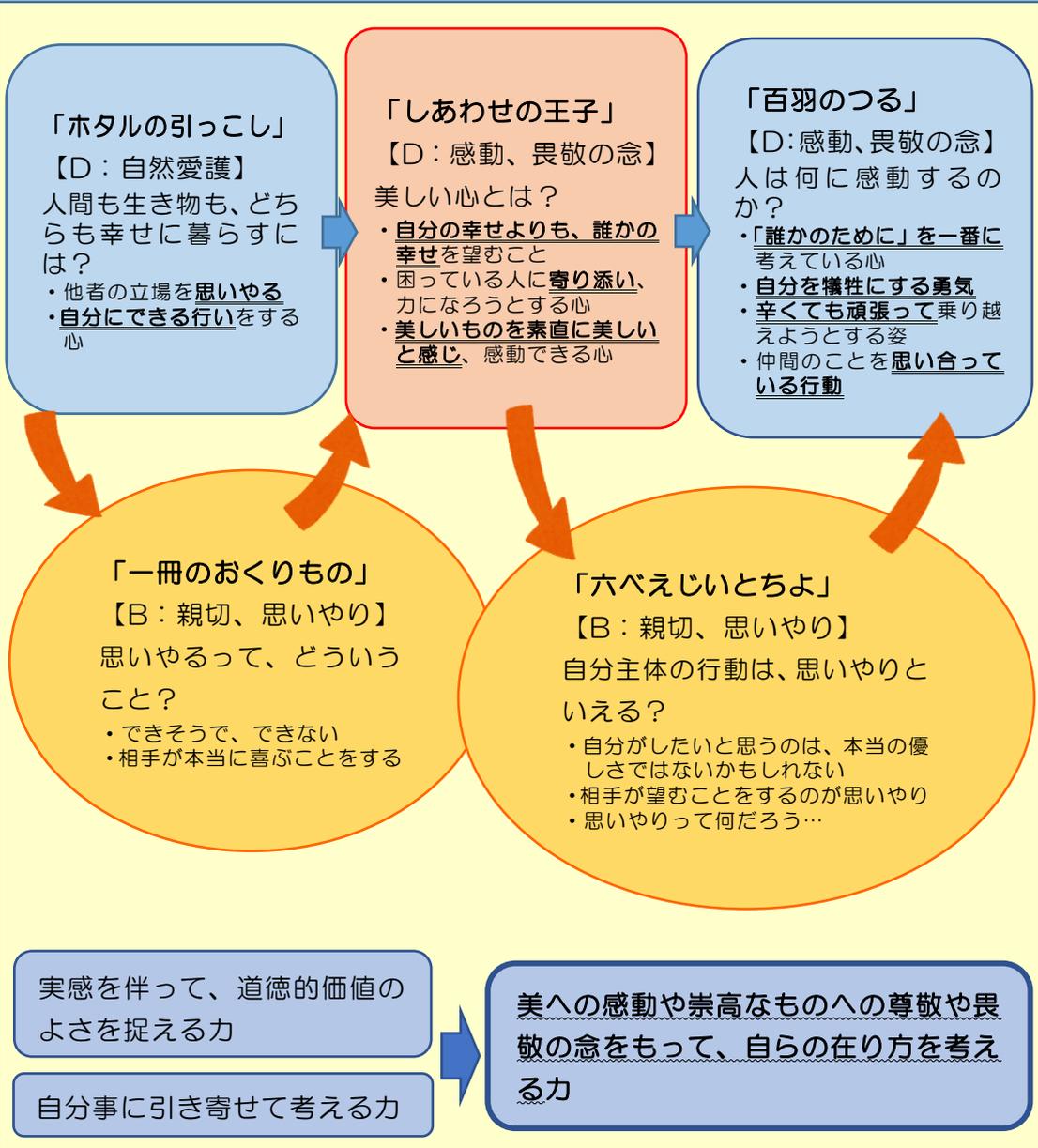
えない子どもたちに感動する心地よさを味わわせ、その感動の源はどこにあるのかを考え、自分の中に美しい心を見付けさせたいと考える。

(5) 単元の構想 ※単元構想図（東京書籍「新しいどうとく3」【道徳：全5時間構想】）

「きのとの宝探検隊！」【総合的な学習の時間】
きのと地域には、素晴らしい自然や文化遺産がたくさん！

実物や充実した視聴覚資料の提示⇒**実感を伴った道徳的価値の理解**

事前事後の関連する学習（つながり）、児童の思考に即した授業展開⇒**実感をともなった深い学び**
自分事に引き寄せる



美への感動や崇高なものへの尊敬や畏敬の念をもち、感動するものや美しいものに積極的に触れようとする子

4 本時の展開（本時 3 / 5 時間）

(1) ねらい

天使がボロボロになった王子様とツバメを抱き上げて天高く昇っていった理由を考えたり、自分の心の弱さを見つめたりする活動を通して、自分の大切なものを犠牲にしても誰かの幸福のために行動できる心の美しさに気づき、「美しさ」は目に見えるものだけではないことを知るとともに、王子様やツバメの美しい心への畏敬の念や憧れの思いを高める。

(2) 展開の構想

授業の冒頭で、「どんなものに美しさ」を感じるかを問い、これまでの体験を想起する。宝石や虹、綺麗な景色など目に見えるものが挙がると想定するが、児童によって美しさを感じるものが様々あることを共有した上で、「美しさについて考えよう」と本時のテーマを設定する。

美しいと感じたところに線を引かせながら教材文を読み聞かせる。「美しい」と感じたところを挙げさせることで、宝石や金ばくなど目に見えるものと、町の人たちに宝石を分け与える王子様の心や、王子様に最後まで付き添ったツバメの気持ちなど、目に見えないものの二つを学級全体で共有できる。次に、なぜ輝いてもない王子やツバメの行動や言葉を「美しい」と感じるのかを考えさせる。それにより「思いやりの心」や「だれかを助けたいという気持ち」など、目に見えなくても美しいものがあることに気付かせたい。

最後に、自分の心の美しさについて問うことで、自己の生き方を見つめ直すとともに、美しい心に近づきたいという思いを高めたい。また、物語を聞いて感動できたことが、自分の心の美しさでもあると伝え、自分の心に誇りをもたせたい。

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
とら える 5分	・自分自身の意識を表出する。 ・スライドを見る。	○自分が「美しいな」と感じるものにはどんなものがありますか？ ●宝石。 ●綺麗な景色を見たとき。 ●虹が出たとき。 ○どちらが美しいですか？ ●綺麗な景色と汚い景色がある。 ●汚れていてあまり綺麗じゃないな。 ○これはどうですか？ ●金色の銅像の方が綺麗。 ●汚れている銅像の方が歴史を感じる。 ○今日は「美しさ」について考えましょう。	○美しい景色と汚れた景色などの画像をいくつか提示し、比較させる。 ○黄金の銅像と、錆びてボロボロの銅像の画像を提示する。

<p>考える 15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文を聞く。 ・「美しいな」と思った部分に線を引く。 	<p>○銅像が出てくる「幸せの王子」を読みます。「美しいな」と感じたところがあれば、線を引きながら聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ルビー」や「サファイヤ」「金ぱく」が美しいと感じました。 ●王子様が自分の宝石や金ぱくを「貧しい人たちに分けました」というところが美しいと思いました。 ●ツバメが「わたしがいつまでもそばにおりますよ」と言った場面が美しいと感じました。 <p>○皆さんの考えです。どのように分けて書いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目に見えるものと見えないもの。 <p>○「美しい」と感じるものには、目に見えるものと見えないものがあるようですね。</p>	<p>○教材文を読み聞かせる。</p> <p>○児童が感じた「美しさ」を、目に見えるものと見えないものに分類して板書する。</p> <p>◇「なぜ美しいと感じたのか」についての理由はまだ問わない。</p>
	<p>・学習課題を確認する。</p>	<p>○「美しさ」とは、どのようなものなのでしょう？（課題設定）</p> <p>○実はこの物語の原作には、こんな文があります。</p> <p>◎なぜ天使は、ボロボロになった王子様とツバメを選び、抱き上げて天高く昇って行ったのでしょうか？（中心発問）</p>	<p>○児童の発言から、学習課題を提示する。</p> <p>○原文を紹介する。</p>
<p>学び合う 20分</p>	<p>・意見交流をしながら考える。</p>	<p>※対話させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町の人たちのことを思って、自分の宝石や金ぱくを分け与えたから。 ●王子やツバメの思いやりの心に感動したから。 ●自分の命を失くしてでも、町の人たちを助けているから。 ●王子様のために、南の国に行くのをやめて、そばにいてくれたから。 ●死ぬかもしれない分かっているけど、最後までそばにいてくれたから。 <p>○「自分の命よりも、誰かのことを大切に思って行動すること」が「美しいもの」として認められたのですね。</p>	<p>○自己犠牲について児童に</p>

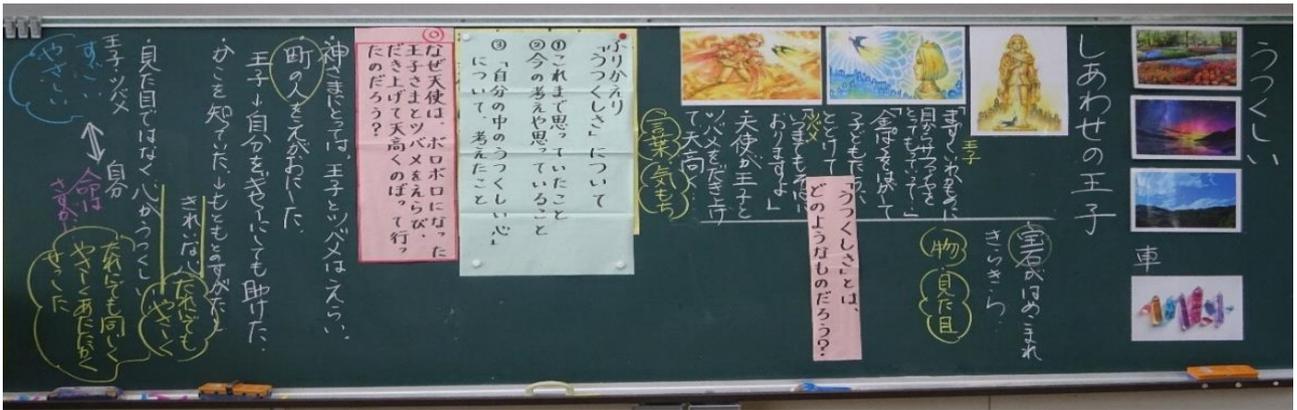
	<p>・「自己犠牲」について考える。</p>	<p>○「みんなは、自分がボロボロになっても、町の人のために自分の宝石や金ばくを分けてあげられると思う？」</p> <p>●できないと思う。</p> <p>●誰かを助けたいとは思うけど、さすがに命は犠牲にできない。</p> <p>○「町の人々のために自分の大切な命を犠牲にできた王子様やツバメのことを、みなさんはどう思いますか？」</p> <p>●すごすぎると思う。</p> <p>●感動する。</p> <p>●カッコいい。</p> <p>○みなさんの心の中にも、王子やツバメのような美しい心はありそうですか？</p> <p>●少しはあるかもしれないけど。</p> <p>●私は王子様みたいに相手を思いやれていないかもしれない。</p> <p>●もっと王子様やツバメのように、美しい心になりたいな。</p>	<p>問い返し、人間の心の弱さを見つめさせる。</p> <p>◇共感する言葉がけや問い返しをして、考えを深めさせる。</p> <p>○児童自身が感じた「美しさ」が、自分にはできないほど崇高な思いやりからきていることをおさえる。</p> <p>○これからの成長に希望をもたせる言葉がけをする。</p>
<p>振り返る 5分</p>	<p>・振り返りを書く。</p>	<p>○今日は「美しさ」とはどのようなことを、みんなで考えました。</p> <p>「美しさ」について、新しく気付いたことや考えたことを書きましょう。</p> <p>●美しさには、目に見えるものと目に見えない美しさもあることに気付きました。</p> <p>●美しいと感じるものには、「綺麗」だけじゃなくて、「感動する」とか「自分にできないほどすごいこと」など、いろいろなものがあると感じました。</p> <p>●わたしは誰かのために自分の命を犠牲にするのはできないと思うけど、できるだけ周りの人が幸せになるよう行動したいです。</p>	<p>○数名の振り返りを紹介して、共有する。</p> <p>□目に見えない美しさに気づき、美しい心に近づきたいという思いをもてる。</p>

(4) 評価

- ・「美しい」ものには、目に見えるものだけでなく、目に見えないものもあると気付いている。
- ・美しいと感じる心は「感動」や「畏敬の念」「思いやり」など様々なものから来ていることが分かる。
- ・美しい心に近づきたいという思いをもち、自分の気持ちや行動を見つめ直している。

(ワークシートの記述・授業時の発言による見取り)

5 指導の実際



導入で、児童に美しいと感じるものについて問うた。児童から出てきた「花畑」や「星空」、「宝石」などの写真を黒板に貼っていくと、「すごい!」「綺麗!」という反応があちこちから上がった。

PowerPointを用いて、写真を2枚ずつ提示した。具体的には、清流の写真とごみが捨てられたドブ川の写真、趣ある日本庭園の写真とボロボロのアパートの写真、金色の天使像と酸性雨の影響で変色し色褪せたマリア像の写真である。児童は、「これは美しい!」「これは汚いから美しいとは言えない」と反応した。

教材文を読み聞かせ、美しいと感じた部分を問うと、児童によって様々な部分を挙げた。例えば、「宝石がはめこまれ、きらきら輝いているところ」や「王子が自分の宝石を町の人にあげたところ」「ツバメが、いつまでもそばにおりますよと言ったところ」などである。授業者が黒板に整理しながらまとめていくことで、児童は人によって美しいと感じるものが異なることに気付き、「美しいとはどのようなものだろう?」という課題意識をもたせることができた。

学び合う場面では、前時の学習（B親切、思いやり『一冊のおくりもの』）での振り返りを想起させ、「この前の学習では、誰かのために自分の大切なものを手放すことって、できそうのできないって言った人が多かったね」と児童に返した。そうすることで、ここで王子やツバメの心や行動が美しくも自分たちには成しえない崇高なものであることとして捉えさせることができた。

振り返りには、多くの児童が「今までは美しいものは目に見えるものだけだと思っていたけど、目に見えないものも美しさになると感じた」と記述した。（実際の記述を下記に掲載）最後に、相田みつを氏の「うつくしいものを うつくしいと思える あなたのところが うつくしい」という詩を見せて読み聞かせ、「王子やツバメの美しさを、美しいと感じることができたみなさんの心も美しいね」と、授業者の思いを伝え授業を閉じた。



<p>今までではうつくしいものは目に見えるものだけ を思っていたけどこのお話を読んで目に見え るものだけじゃなく目に見えないものも うつくしいになるんだと分かりました。 でもわたしは王子のようにやさしくできな いかもしれないので王子がまじいと思えました。</p>	<p>①さすかたいのろはあけられぬ ②いまのかんがえはいのろをあげるの白む すかしいけどさういふ人になりたない</p>	<p>これまでは目に見える物だけがすこきだなと 思っていたけど目に見えない物のすこきな物はた くさんあるなと思いました。 題名のとうりしあわせな王子だなと思いまし た。</p>	<p>わたしは、そんなにいいかかもってる ちのはあんまりあがりおななかつ のしあわせの王子はじいおんをヤ せいにしていたのでわたしもしあ わせの王子のようにつつくしい心 になるよってかんがいました。</p>	<p>これまじは外のみた目でうつくしいか うつくしくないかは人だんとしていたけど今日 のじきょうで心に目に見えないところも ちんど見てかかうつくしいかうつくし くないかかんたんに思いました。</p>	<p>うつくしい心のもちぬしは、あひまつを 目を見んてなまなを、おんがあひまつ る人がこころのやさしい人だと思いま す。</p>
---	---	--	---	---	--

6 成果と課題

(1) 実物や充実した視聴覚資料の提示について

○実物（生き物）を目の前に連れて来たり、美しい画像資料を提示したりすることで、児童の関心を引き付け、自分事に引き寄せて考える意欲につながった。

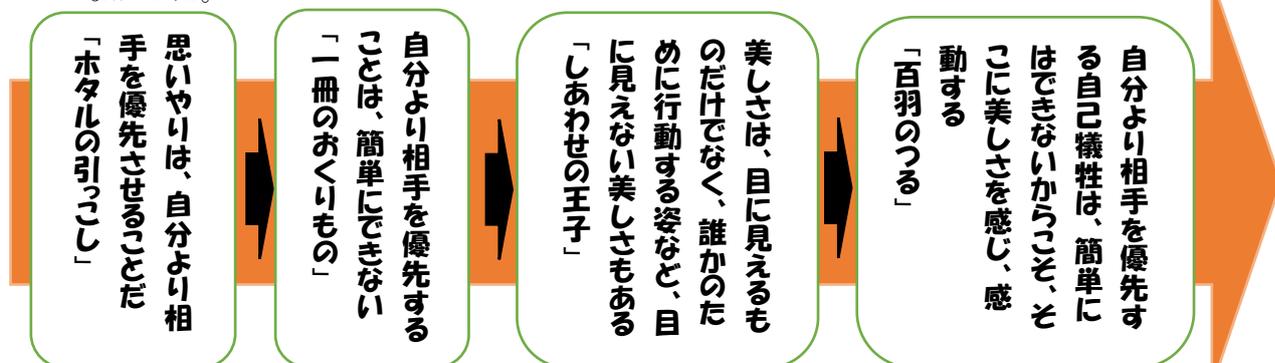
- ・「ホタルの引っこし(自然愛護)」⇒地域の川に生息しているドジョウ、ホタルの写真、
- ・「しあわせの王子(感動、畏敬の念)」⇒美しい風景と汚れた風景の比較画像、宝石や星空の写真
- ・「百羽のつる(感動、畏敬の念)」⇒タンチョウヅルの写真

○美しい風景と汚れた風景を交互に示すことで、児童自身が「自分がどんなものを美しいと捉えているか」という意識に焦点を当てることができた。

(2) 単元構成の工夫

○前時の学習で児童が感じた思いや考えたことを、次の時間の中心発問や問い返しに生かすことができ、思考を深めさせることにつながった。

○様々な道徳的価値が互いに関連し合っていることを、実感を伴って理解させることにつながった。



○道徳科では、考えの変容を長期的な目で見取るとされている。意図的に単元を構成し、その単元の最初と最後に見取る機会を設けることで、定期的な見取りが可能になった。また、内容項目を絞って単元を組んだことで、児童が内容項目を繋げて考えている記述や、以前に同じ内容項目を扱った際と変容した考えなどを見取ることができた。

○本研究では、主にD「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」と、B「主として他者との関わりに関すること」の教材を組み合わせて単元を構成した。2つの領域を組み合わせることで、児童が考えを深めることができた。他にどんな有効な組み合わせがあるのか、様々な領域や内容項目を扱った実践も進めていきたい。

(3) 児童一人一人の感じ方から展開する授業構成

○同じ教材文を提示しても、感想や関心をもった場面は児童によって異なっている。初発の感想や考えを共有することで様々な考え方、感じ方に触れさせることができた。そこから課題を設定することで、課題に対する児童の意欲を高め、自分事に引き寄せて考えさせることができた。

△児童と教材の出会いを大切にして、児童一人一人の感じ方から展開する授業づくりを行うため導入を工夫した。しかし、導入に時間をかけることで、思考したり議論したりする時間が十分に取れなくなった。本実践でも、さらに問い返しを行い、深めたい場面があったが、時間の制約が来てしまい諦めざるを得ないこともあった。今後は、工夫を凝らし、児童の関心を引き付けつつも、授業後半に考えを深めさせる時間的余裕を残すことができる導入の在り方を探っていきたい。

〈参考文献〉 ・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編